

平成29年度 自己点検・評価に係る報告書

「実施結果」欄は、Ⅰ：「実施していない」、Ⅱ：「十分に実施していない」、Ⅲ「十分に実施した」、Ⅳ：「計画を上回って実施した」

第3期中期計画	平成29年度 年度計画	実施状況	実施結果	次年度予定
<p>1 教育に関する事項 (1) 入学者の確保 ○地域の中学校校長会、教育委員会及びメディア等を通じて積極的な広報活動を行い、本校の認知度を高める。</p>	<p>(1) 入学者の確保 ○中学校等との連携を深め、メディア等を通じて、広く社会に向けて広報活動を行う。</p>	<p>○呉市教育委員会などと連携し、公開講座(計33回、呉市との連携講座7回を含む)、出前授業(計27回)を実施した。 ○県内の中学校(26校)を本校校長が独自に訪問し、中学校校長に対して呉高専の特別推薦の入試制度の導入などの広報活動を行った。</p>	Ⅲ	有
<p>○本校の学習内容を体験できるような学校見学会、入試説明会、体験イベント等を充実させ、特に女子学生の志願者確保に向けた取組を推進する。</p>	<p>○学校見学会、入試説明会、びっくりワクワクサイエンスショー等を実施し、小学生や中学生、保護者に高専でのものづくり教育の魅力を発信する。 ○女子中学生をより多く受け入れるために女子学生によるイベントの企画・運営に係る活動等の取組を促進する。 ○女子中学生や保護者に、高専における学校生活、女性技術者や女性研究者のロールモデルなどを分かりやすく伝え、高専の魅力について情報発信を行う。 ○女子学生広報部において中学校訪問、イベントを通じて広報活動を行う。 ○専攻科入試説明会を実施し、学内の広報に努める。 ○専攻科における教育内容や入試内容についてHPでPRに努める。</p>	<p>○7月30日に第1回学校見学会を開催し、329名の生徒、全体で666名(昨年は689名)の参加があった。また、10月28日に第2回学校見学会を開催し、82名の生徒、全体で173名の参加があった。 ○10月7、14、22日の3日間(3会場)で入試説明会を実施し、昨年度より49名減の110名の生徒(保護者や教員を含めると全体で239名)の参加があった。 ○12月10日にびっくりワクワクサイエンスショーを開催し、775名の参加者があった。公開講座(26講座)及び呉市との連携講座(7講座)を実施した。 ○7月30日に開催された学校見学会及び10月28日の第二回学校見学会で、女子中学生なんでも相談会を開催し、女子中学生とその保護者に本校女子学生が学校生活全般や先輩の活躍等々を紹介し、入学後どのように成長し、卒業後どのように活躍できるかをわかりやすく伝えた。また、女子学生が開発した工学への興味を醸成する工作キットを作成してもらい、本校のPRを行った。 ○学校見学会で女子学生が広報活動を行うとともに、夏期休業中に出身中学校を中心に3校訪問し、本校のPRを行った。春期休業中も実施した。 ○びっくりワクワクサイエンスショー(12/10)に女子学生が出展し、多くの女子中学生やその保護者と交流して本校のPRを行った。 ○在校生を対象とした専攻科入試説明会を4月12日に開催し、93名の学生が参加した。 ○4月に専攻科に関するHPをリニューアルした。 ○本校の入試関係HPについて、スマートフォンによる閲覧を配慮したものに改善した。</p>	Ⅲ	有
<p>○中学生やその保護者に本校の特徴を効果的に周知できる広報資料を作成する。</p>	<p>○中学校訪問における訪問先、訪問時期、訪問方法の更なる見直しなどを行い、効果的なPR活動を実施する。 ○本校を紹介するホームページ等の充実を図る。</p>	<p>○本校教員による県内の中学校訪問を、校長による中学校訪問(トップセールス)ならびに教員による指定校訪問制に改め、校長レベルの面談ならびに重点校訪問による広報活動に改めた(67校訪問。うち校長訪問26校)。 ○本校の公式WEBサイトの閲覧者数集計を正式に開始した。 ○集計結果から「呉高専日誌」の学外からの閲覧者数が毎月平均約3万件あることが判明した。 ○本校ホームページ内の呉高専日誌の各項目「教育・研究」、「インキュベーションワーク」、「クラブ活動」、「イベント等」ができるだけ均等に露出するように4つの項目に再編し、分かりやすくなるよう見え方を改善した。 ○本校ホームページに「呉高専の特色」のバナーを新たに設け、本校の魅力発信を強化した。 ○本校ホームページをスマホ対応にした。</p>	Ⅲ	有

平成29年度 自己点検・評価に係る報告書

「実施結果」欄は、Ⅰ：「実施していない」、Ⅱ：「十分に実施していない」、Ⅲ「十分に実施した」、Ⅳ：「計画を上回って実施した」

第3期中期計画	平成29年度 年度計画	実施状況	実施結果	次年度予定
○本校のアドミッションポリシーにふさわしい人材を的確に選抜できるような入試を適切に実施する。	○本校の教育にふさわしい人材を的確に選抜できるような推薦入試(特別推薦、一般推薦)を再検討し、より優秀な生徒の獲得に努める。 ○専攻科推薦入試において、平成28年度に受験資格の見直しを実施しており、引き続き優秀な学生の確保に努める。	○平成27年度入学生より導入した「特別推薦」を、学校見学会、中学校訪問、入試説明会で周知に努めた。 ○平成30年度入試で、特別推薦については出願基準を、一般推薦については個人面接の質問事項をそれぞれ見直した。 ○5月12日に専攻科推薦入試(志願者数30名、合格者数29名)を実施した。また、6月10日に専攻科学力入試(志願者数28名、合格者数25名)を実施した。さらに、2月10日に専攻科学力入試二次募集(志願者数3名、合格者数3名)を実施した。	Ⅲ	有
○女子学生の受入れをさらに推進するとともに、入学志願者の質を維持する。	○中学生に本校の教育実績をPRし、入学者の学力水準の維持・向上に努める。	○本校で実施しているインキュベーションワークの取り組み実績の一部が、中国新聞や朝日新聞等(11件)に掲載・紹介された。また、いくつかのTVでも照会された(7件)。 ○学校見学会や入試説明会の参加者に本校の教育実績をPRした。 ○本校の要覧(p.9)に本校の教育実績を掲載した。 ○「呉高専の特色」を9項目にまとめ、本校のホームページにバナーを設け、魅力を広く発信するとともに、学校見学会等でもPRした。 ○本校の女子学生があらゆる機会を通して女子中学生とその保護者に本校のPRを行い、優秀な学生の獲得に努めた	Ⅲ	有
(2)教育課程の編成等 ○呉高専教育改革検討プロジェクトの答申(平成26年5月)に基づき、「地域発・インキュベート型教育」へ教育体制を転換する。 ○専攻科は一本化へと改組する。	(2)教育課程の編成等 ○平成31年度からの新カリキュラムの導入に向けて、新カリキュラムの検討・策定を行う。 ○「地域発・インキュベート型教育」の実践として、「インキュベーションワーク」を全学年において行う。 ○6高専(呉・徳山・宇部・北九州・広島商船・大島商船)連携教育において、グローバル倫理、経営マネジメント、物理応用工学、生命科学を実施する。 ○専攻科改組に伴う平成29年度新設科目を適正に実施する。 ○長期インターンシップを実施し、実習期間中は学生のフォローを行う。また次年度に向けて、長期インターンシップ受入先の確保を行う。	○「地域発・インキュベート型教育」の実践として、「インキュベーションワーク」を全学年において行った(合計79テーマ)。 ○後期より、5高専(呉・宇部・北九州・広島商船・大島商船)連携教育としてグローバル倫理、経営マネジメント、物理応用工学を実施した。当初予定していた徳山高専は選択科目のため不参加となった。 ○平成28年度の専攻科改組に伴い、専攻科2年生に対する新設科目を開講した。前期・後期開講科目ともに実施済みである。 ○5月8日～7月14日の期間において、専攻科1年生19名が長期インターンシップを実施し、8月4日にインターンシップ報告会を開催した。	Ⅲ	有
	○「KOSEN4.0イニシアティブ」の実施を通して教育課程の編成等の改善に取り組む。	○「KOSEN4.0イニシアティブ」のために地域実践教育センター準備WGを6回開催(10月末時点)し、地域実践教育プログラムや新カリキュラムの概要を検討し、ほぼ大枠を決定した。	Ⅲ	有

平成29年度 自己点検・評価に係る報告書

「実施結果」欄は、Ⅰ：「実施していない」、Ⅱ：「十分に実施していない」、Ⅲ「十分に実施した」、Ⅳ：「計画を上回って実施した」

第3期中期計画	平成29年度 年度計画	実施状況	実施結果	次年度予定
○学習到達度試験やTOEICなどを活用して基礎学力を把握するとともに、技術者として必要な基礎能力の向上を図る。	○学習到達度試験やTOEICを通じて基礎学力の定着度を検証し、技術者として必要な基礎学力の向上を図る。 ○専攻科改組に伴う平成29年度新設科目を適正に実施する。	○6月6日に長期インターンシップ中の専攻科1年生を除く全学生を対象とした英語統一試験を実施した。 ○TOEIC公開テスト団体受験の手続きを希望者を対象に行った(4月9日:42名受験、12月10日:59名、3月11日:40名受験)。 ○12月9日にEMaT試験を実施し、168名が受験した。 ○1月11日に数学及び物理の学習到達度試験を実施した。 ○平成28年度の専攻科改組に伴い、専攻科2年生に対する新設科目を開講した。前期開講科目、後期開講科目とも当初の予定通り実施した。	Ⅲ	有
○卒業生を含めた学生による授業評価・学校評価を実施し、その結果を積極的に活用する。	○学生による授業評価アンケートの内容を再検討し、より適切な授業評価を行う。	○授業評価アンケートの内容を見直し、新しい評価項目で後期及び通年科目の授業評価アンケートを実施し、教員はアンケート結果を反映した所見を記入し、これを学内で公表した。	Ⅲ	有
○ものづくりに関連した全国的な競技会やコンテストへの参加を積極的に奨励・支援し、ものづくり能力の向上を図る。	○体育大会、ロボコン、プロコン、デザコン及び英語プレコン等に積極的に参加し、入賞をめざす。	○ロボコン、プロコン、体育大会(地区大会(夏季))等に参加した。 ○ロボコン中国地区大会では、本校から出場2チームの、Aチームが優勝、Bチームが準優勝し、Aチームが全国大会に出場を果たした。全国大会では一回戦を勝ち上がるも、2回戦敗退となった。 ○体育大会(夏季)では陸上・水泳・ソフトテニス・剣道・サッカー・テニスの6競技が全国高専体育大会に出場したが、上位入賞は無かった。 ○デザコンには構造デザイン部門に2チームが出場し、それぞれ5位入賞・審査員特別賞を受賞した。 ○英語プレコンは予選落ちとなり、本選出場には至らなかった。	Ⅲ	有
○ボランティア活動などの社会奉仕体験活動や自然体験活動などの様々な体験活動を充実させる。	○インキュベーションワーク等を通じてボランティア活動の意義を説明し、社会奉仕体験活動や自然体験活動への参加を呼び掛ける。 ○インターアクトクラブの活動を通じてボランティア活動を実施する。	○インキュベーションワークやインターアクトクラブの活動を通じて、ボランティア活動の意義を、学生に呼びかけた。 ○インターアクトクラブでは、6月に呉中央コスモス園、9月に阿賀コスモス園での車いす清掃活動を、呉東ロータリークラブと共同で実施した。また、5月のインターアクト指導者研修会では、県内のインターアクトクラブ会員が集まって日頃の活動について情報交換を行った。7月に開催されたインターアクト地区大会では、広島・山口両県のインターアクトクラブの代表者が集まって講演会やグループ討議を通じて奉仕の精神を学んだ。また、1月には清水ヶ丘高校インターアクトクラブと合同で呉市交通遺児救済募金活動を実施した。	Ⅲ	有
(3)優れた教員の確保 ○公募制等によって多様な背景を持ち、優れた教育力・研究力を有する教員を採用する。	(3)優れた教員の確保 ○多様な背景を持つ優れた教育・研究力をもつ教員を、公募制により広く募集する。	○定年退職で不補充であった電気情報工学分野の教員1名(助教)を公募し、外部資金取得に優れた研究員を新規採用者として、来年度に向けて助教1名の採用が決定した。 ○前年度末に中途退職した教員(英語)を公募し、来年度に向けて女性教員助教1名を採用が決定した。	Ⅲ	有
○教員の力量を高め、学校全体の教育力を向上させるために、他高専、大学等との人事交流を図る。				

平成29年度 自己点検・評価に係る報告書

「実施結果」欄は、Ⅰ：「実施していない」、Ⅱ：「十分に実施していない」、Ⅲ「十分に実施した」、Ⅳ：「計画を上回って実施した」

第3期中期計画	平成29年度 年度計画	実施状況	実施結果	次年度予定
○専門科目、理系の一般科目については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者を全体として70%、理系以外の一般科目については、修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を全体として80%を下回らないように採用する。	○専門科目の教員採用については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を採用する。	○電気情報工学分野で博士の学位を持つ者を新規採用者として選考し、助教1名の採用が決定した。	Ⅲ	有
○女性教員の比率向上を図るためのポジティブアクションを継続して実施するとともに、働きやすい職場環境の整備を推進する。	○女性教職員に配慮した施設の整備を検討する。 ○教員公募に際し、女性のための公募や評価が同等の場合の優先的な採用・登用等を検討する。	○女性教職員に配慮し、トイレにウォシュレットを配備する検討を開始した。 ○人文社会系分野(英語)で留学経験の豊富な女性教員1名(助教)の採用が決定した。	Ⅲ	有
○FDなど教員の能力向上を目的とした研修を計画的に実施するとともに、各種研修に積極的に参加する。	○教員の能力向上を目的としたFD研修を実施するとともに、教職員間で十分な意見交換を行う機会を設ける。	○FD研修を3回(6/28、7/26、8/29)実施し、延べ144名の参加があり、活発な意見交換により教員の能力向上に努めた。 ○11月24日に本年度最後のFD研修(英語教育)を行った。	Ⅲ	有
○教育活動や生活指導などにおいて顕著な功績が認められる教員や教員グループを毎年度表彰する。	○教員活動ポイント集計票の結果を総合的に判断し、校長表彰者を提案するとともに、国立高等専門学校教員顕彰候補者として高専機構に推薦する。	○教員活動ポイント集計票の結果を総合的に判断し、校長表彰者を提案した。	Ⅲ	有
○文部科学省等の制度を利用した国内外の大学等の研究・研修への参加を促進するとともに、教員の国際会議への参加を推進する。	○FDの一環として、在外研究員として1名をオーストラリアのカーティン大学へ、財団からの海外派遣で1名をオランダのトゥウエンテ大学へ、約6週間の短期英語研修で1名をニューヨーク市立大学クイーンズ校English Language Instituteへそれぞれ派遣する。 ○教員の国際会議への参加を推進するため、校長裁量経費で支援する。	○准教授1名を在外研究員として1年間、オーストラリアのカーティン大学へ派遣した。 ○助教1名を6月から4カ月間、オランダのトゥウエンテ大学へ財団からの支援により派遣した。 ○准教授1名を7月から約6週間、ニューヨーク市立大学クイーンズ校English Language Instituteへ短期英語研修のため派遣した。 ○校長裁量経費で、国際会議への参加を4名(6件)支援した。	Ⅲ	有
(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム ○学生の主体的な学びを実現するICT活用教育環境を整備し、モデルコアカリキュラムも導入することにより、教育の質保証を推進する。 ○呉高専教育改革検討プロジェクトの答申に基づき、「地域発・インキュベート型教育」を行うことにより、学生を“世界目線”の技術者へ孵化させ、従来の「ものづくりの中核技術者」に加え、「社会を変える人材」を3%(学科で1人)育てる。 ○専攻科において、他高専と連携することにより、良質な教育資源を有効活用し、教育力を向上させることで専攻科の充実を図る。	(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム ○モデルコアカリキュラム(本案)を考慮した新カリキュラムの検討を行う。 ○アクティブラーニングを各科目に適宜導入し、学生の主体的な学習を促す。 ○6高専連携教育を実践するため、ICT機器を活用し、遠隔アクティブラーニングを実践する。 ○高専学生情報統合システムへの対応を検討する。	○モデルコアカリキュラムに考慮した教育を行うため、シラバス(Webシラバス)を更新した。 ○「KOSEN4.0イニシアティブ」のために地域実践教育センター準備WGにおいて新カリキュラムの概要を検討し、年度内に大枠を決定した。 ○アクティブラーニングを全教員が各自の科目で実践し、各自の実践例を報告書に取りまとめた。 ○後期より、5高専(呉・宇部・北九州・広島商船・大島商船)連携教育において、ICT機器を活用した遠隔アクティブラーニングを実践した。	Ⅲ	有
		○機構本部主催で広島市で行われた9月15日の研修会に教職員3名が参加した。	Ⅲ	有

平成29年度 自己点検・評価に係る報告書

「実施結果」欄は、Ⅰ：「実施していない」、Ⅱ：「十分に実施していない」、Ⅲ「十分に実施した」、Ⅳ：「計画を上回って実施した」

第3期中期計画	平成29年度 年度計画	実施状況	実施結果	次年度予定
○在学中の資格取得を積極的に推進するとともに、JABEEプログラムを再構築することにより、教育の質の向上を図る。	○学生の在学中の資格取得を積極的に推進する。	○宅地建物取引士の資格をもつ非常勤講師として雇用して「不動産概論Ⅰ（建築学科）」を開講し、学生の資格取得を推奨した（建築学科学生14名が宅地建物取引士試験を受験し、1名が合格した。 ○機械設計技術者試験の試験会場に本校教室を提供し、機械工学科学生26名が機械設計技術者3級を受検し、11名が合格した。	Ⅲ	有
○高専間や大学等の多方面における学生の交流活動を積極的に推進する。	○広島大学、長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学等とインターンシップ等を含め、学生の交流活動を推進する。 ○中国・四国地区高専の専攻科生による研究交流会に参加する。	○夏季休業期間中に、本科の学生が校外実習として大阪大学に1名、長岡技術科学大学に1名、豊橋技術科学大学に3名それぞれ参加し、交流を図った。 ○4月21日～22日に宇部高専において平成29年度中国・四国地区高専専攻科研究交流会が開催され、専攻科2年生8名が研究発表を行った。	Ⅲ	有
○呉高専教育改革検討プロジェクトから答申された「地域発・インキュベート教育」による特色ある教育への取組や優れた教育実践例を機構へ提供する。	○3年目となった「インキュベーションワーク」を全学年において実施し、各メディアを通じて公表する。	○「地域発・インキュベート型教育」として、「インキュベーションワーク」を全学年において実施し（合計79テーマ）、取り組み事例の一部が中国新聞や朝日新聞等の記事として16件掲載され、TVでも13件紹介された。	Ⅲ	有
○機関別認証評価の結果を教育の改善に活用する。	○機関別認証評価や運営顧問会議の結果に基づき、教育改善に努める。	○9月21日～22日に高専機構による監事監査を受け、本校の特色ある取組や優れた取組の評価を得るとともに、改善点の指摘を受けた。 ○運営顧問会議を2月28日に開催し、本校の教育・研究活動についての自己点検評価を行った。	Ⅲ	有
○インターンシップ等による産業界等との連携を組織的に推進するとともに、地域産業界との連携によるカリキュラム・教材の開発など共同教育の推進を図る。	○本科生の校外実習を積極的に奨励・支援する。 ○専攻科生は長期インターンシップを実施し、実習期間中は学生のフォローを行う。また次年度に向けて、長期インターンシップ受入先の確保を行う。	○本科4年生158名中、144名（機械34名、電気37名、環境40名、建築33名）が校外実習に参加した。 ○インキュベーションワークの授業立案・実施に当たり、民間企業よりコンサルタント1名にプログラムディレクターを委嘱し、適宜、助言・指導を得た。 ○5月8日～7月14日の期間において、専攻科1年生19名が長期インターンシップを実施し、8月4日にインターンシップ報告会を開催した。	Ⅲ	有

平成29年度 自己点検・評価に係る報告書

「実施結果」欄は、Ⅰ：「実施していない」、Ⅱ：「十分に実施していない」、Ⅲ「十分に実施した」、Ⅳ：「計画を上回って実施した」

第3期中期計画	平成29年度 年度計画	実施状況	実施結果	次年度予定
<p>○企業技術者や外部の専門家など、知識・技術をもった人材に加え、幅広いスキルやネットワークを有した外部人材を活用し、教育体制の充実を図る。</p>	<p>○地域に対して卒業研究テーマを公募し、地域とともに学生教育を支援する。 ○専攻科改組に伴う任期付教員を活用し、「グローバル倫理」、「プロジェクトデザイン工学演習」、「インターンシップ」等、専攻科教育の充実を図る。</p>	<p>○インキュベーションワークの特別講師に外部の方を6名(延べ19名)招聘し、共同教育を実施した。 ○地域に対して卒業研究テーマを公募した結果、8件の応募があり、本校教員の研究分野の整合性からこの内6件を採択し、担当学生がそれぞれの卒業研究テーマを実施した。研究を進めるにあたっては、スポットで依頼者、担当教員、学生を含めて研究の方向性についてディスカッションを行った。 ○前期では任期付教員により「長期インターンシップ」、「プロジェクトマネジメント」を実施した。後期では「グローバル倫理」、「プロジェクトデザイン工学演習」を実施した。</p>	Ⅲ	有
<p>○理工系大学との間で、教員の研修、教育課程の改善、卒業生の継続教育などで、有機的な連携を推進する。</p>	<p>○長岡・豊橋両技術科学大学と連携・協働して、教員及び学生の教育・研究を検討する。</p>	<p>○8月30日に群馬大学、9月26日、2月2日に豊橋技術科学大学、10月25日に長岡技術科学大学の進路説明会を実施した。 ○長岡・豊橋両技術科学大学と連携・協働して、教員及び学生の教育・研究を実施した。</p>	Ⅲ	有
<p>○アクティブラーニングを効果的に実施できるように校内ネットワーク等の情報基盤を整備し、ICT活用教育を充実する。</p>	<p>○授業時間以外でeラーニングを中心とした自主学習を低学年を中心に促し、学生の基礎学力を高める。 ○6高専連携教育においてスマートボードやビデオ会議システムを用いた授業を推進する。</p>	<p>○1年生全員に対し、数学や英語などでeラーニングによる教材(すららなど)を昨年に引き続き使用し、学生の自宅学習の改善に努めた。 ○後期より、5高専(呉・宇部・北九州・広島商船・大島商船)連携教育において、スマートボードやビデオ会議システムを用いた授業を実施した。</p>	Ⅲ	有
<p>(5)学生支援・生活支援等 ○学生支援に関する機能の強化・充実を図る。</p>	<p>(5)学生支援・生活支援等</p> <p>○入学金免除、各種授業料免除等を適切に実施する。 ○学生及び教職員対象のカウンセラー講話を実施する。 ○自殺予防の対策として「いのちの授業(仮称)」を学生対象に実施する(6回程度)。 ○学生相談室長、学生相談室員の情報共有をはかるため相談室会議を定期的に開催する。 ○学生対象の生活習慣調査及び心とからだの健康調等のアンケートを実施し、事後の学生指導を行う。 ○自殺予防のアンケート後の事後指導の在り方について相談室を中心に再検討する。 ○学生支援機構、高専機構等の主催するメンタルヘルス関連の研修会に参加し、人材育成をはかる。 ○学生相談や発達障害・カウンセリング等に関する書籍・DVD等を揃え、教職員が積極的に利用できるようにする。</p>	<p>○入学金免除について、新入生宛に案内書類の送付やガイダンス等で周知を行った。入学金徴収猶予1名分を実施した。 ○授業料免除は、教員宛メール及び校内電子掲示板を活用し、申請案内の周知を行った。前期授業料について全額免除26名、半額免除13名、特別措置による免除1名(就学支援金によって賄いきれない授業料残額について免除)を実施した。後期授業料については、全額免除24名、半額免除16名、卓越した学生に対する授業料免除を4・5年生各クラスの成績優秀者1名(計8名に各4分の1額免除)に実施した。 ○学生対象のカウンセラー講話を6月14日(1年生)、7月12日(3年生)、10月11日(2年生)に、教員対象に7月26日に実施した。 ○自殺予防の対策として「いのちの授業」を7月5日、7月19日、9月20日、10月4日、12月6日、1月17日、2月2日に実施した。 ○学生相談室長、学生相談室員の情報共有をはかるため相談室会議を4月1日、5月23日、7月25日、11月27日、3月26日に開催した。 ○学生対象の心とからだの健康調査等のアンケートを5月に実施し、事後の学生指導を行った。また、同アンケートを12月にも実施し、結果と対応策を関係教員に周知した。 ○自殺予防のアンケート後の事後指導の在り方について相談室を中心に再検討し、実施結果を報せる範囲を以前より広げ自殺予防につなげるようにした。 ○学生支援機構、高専機構等の主催するメンタルヘルス関連の研修会には8月28・29日、9月26日、10月10・11日に相談室員、学生課長らが参加した。さらに12月17・18・19日に開催された全国学生相談研究会にも相談室員が参加し、人材育成をはかった。 ○学生相談や発達障害・カウンセリング等に関する書籍・DVD等を揃え、リストを配布し、教職員が積極的に利用できるようにした。</p>	Ⅲ	有

平成29年度 自己点検・評価に係る報告書

「実施結果」欄は、Ⅰ：「実施していない」、Ⅱ：「十分に実施していない」、Ⅲ「十分に実施した」、Ⅳ：「計画を上回って実施した」

第3期中期計画	平成29年度 年度計画	実施状況	実施結果	次年度予定
○寄宿舎等の学生支援施設の整備計画を策定する。	○学生寮の環境整備を行う。 具体例——放置自転車の処分／ダンボール置き場の整理／各寮棟の階段の清掃徹底／浴室(ボイラー含)の修繕／昼食時、寮食堂に音楽を流す／会議室の有効利用(学生間の親睦、学習等)	○学生寮の環境整備 ・放置自転車の処分…4/27実施済／・ダンボール置き場の整理…夏・秋以降、継続して実施／・各寮棟の階段の清掃徹底…業者委託と寮生による清掃を徹底／・浴室(ボイラー含)の修繕…継続課題／・昼食時、寮食堂に音楽を流す…4月より実施中／・会議室の有効利用(学生間の親睦、学習等)…4月より開放して有効利用中…それぞれを年度中に遂行した。	Ⅲ	有
○各種奨学金制度の情報を学生に紹介し、奨学金の効果的な活用を促進する。	○各種奨学金について分かりやすく学生に情報提供する。	○教員宛メール及び校内電子掲示板を活用し、奨学金の情報提供を行った。その結果、日本学生支援機構奨学金13名、日本学生支援機構給付型奨学金(予約)1名、小松育英会奨学金5名、天野工業技術研究所奨学金基金1名、ウソオ財団奨学金1名、広島県高等学校等奨学金2名の奨学金を斡旋することができた。 中間評価後にも数件の奨学金案内があり、学生に向けて周知を行ったが、希望者はいなかった。	Ⅲ	有
○入学から卒業までのキャリア形成支援を充実させるとともに、就職率については高い水準を維持する。	○学生の進路選択を支援するため、キャリア教育(SAPAR)の内容を再検討し、実施する。 ○就職担当教員が学生の就職希望会社を訪問して情報収集を行う。 ○就職・進学ガイダンスを計画的に実施する。	○就職支援として、就職準備セミナー(6/7、1/15)、学生の就職活動のための身だしなみセミナー(6/28)、合同会社説明会(1/21他適宜紹介)などの一連の企画を実施した。 ○進学支援として、編入学試験対策セミナー(4/26、10/25)、SPI模擬試験(7/12、12/11)などを実施した。 ○進路選択支援として、自己分析(11/1、1/17)、適性検査(12/6)などを実施した。 ○就職担当教員が学生の就職希望会社を訪問して情報収集や求人依頼を11～3月に行った。	Ⅲ	有
○施設の老朽度・狭隘化、耐震性を考慮し、その結果を踏まえて整備、及び省エネ化対策を推進する。	(6)教育環境の整備・活用 ○施設の老朽度・狭隘化、耐震性を調査・分析し、その結果を踏まえ校内環境のマスタープランを作成する。 ○節電アクションプランをHPIにアップし、周知と共に節電の協力を得る。 ○第四寮3階内部改修工事を延滞なく行う。 ○省エネ化対策を推進する。 ○引き続き、平成26年度の監事監査における指摘事項について対応する。 ○図書館整備について、整備計画をまとめ、概算要求を行う。 ○平成29年度高専統一ネットワークシステム整備に向け、設計業務を完了させる。 ○全学的に施設や設備の稼働状況を調査し、全学的な視点に立った施設マネジメントに基づき、整備計画の見直しを行う。 ○当該整備計画に基づき、産業構造の変化や技術の進展に対応した教育環境の確保、安全・安心対策や環境に配慮した老朽施設設備の改善を計画的に推進する。	○施設の老朽度・狭隘化、耐震性を調査・分析し、その結果を踏まえ校内環境のマスタープランを作成した。 ○引き続き、冬の節電アクションプランをHPIにアップし、周知と共に節電の協力を依頼した。 ○省エネ化対策を推進した。 ○引き続き、平成26年度の監事監査における指摘事項について対応する。 ○図書館・教育センター整備について、整備計画をまとめ、平成30年度の概算要求を行った。 ○全学的に施設や設備の稼働状況を調査し、全学的な視点に立った施設マネジメントに基づき、整備計画の見直しを行う。 ○当該整備計画に基づき、産業構造の変化や技術の進展に対応した教育環境の確保、安全・安心対策や環境に配慮した老朽施設設備の改善を計画的に推進する。	Ⅲ	有
○安全衛生に関する講習会を継続して実施するほか、実験実習安全必携を配付する。	○安全衛生に関する講習会を実施する。 ○実験実習安全必携を配付する。	○11月1日に「安全衛生に関する講習会」を実施した。 ○新規採用教職員に対し、実験実習安全必携を配付した。	Ⅲ	有

平成29年度 自己点検・評価に係る報告書

「実施結果」欄は、Ⅰ：「実施していない」、Ⅱ：「十分に実施していない」、Ⅲ「十分に実施した」、Ⅳ：「計画を上回って実施した」

第3期中期計画	平成29年度 年度計画	実施状況	実施結果	次年度予定
○男女共同参画を推進するため、各高等専門学校の参考となる情報を収集し、必要な取組を実施する。	○「男女共同参画推進モデル校」として実施した事業を継続・発展させ、全国高専への男女共同参画の普及を推進する。 ○女子学生に対するセミナーを開催し、キャリア形成に努める。	○女子学生が夏期休業中に出身中学校を中心に3校訪問し、本校のPRを行った。春期休業中にも実施した。 ○12月7日に広島県との共催で、県下で活躍する女性技術者7名を本校に招き、体験談を中心としたセミナーを開催し、女子学生のキャリア形成を図った。	Ⅲ	有
2 研究や社会連携に関する事項 ○全国高専テクノフォーラム等への参加を推奨し、外部資金獲得では組織的、計画的に取り組み、全教員が何らかの外部資金獲得に向けて応募できるような活動を促進する。	2 研究や社会連携に関する事項 ○教員全員が自ら研究計画シートを作成し、研究企画会議等でその進捗を把握、研究力向上に努める。 ○全教員はミニマムゴール以上の成果をあげるよう努力する。 ○各分野ごとに外部資金導入に関する年間計画を立案し、補助金申請書の査読システムなど実施することで、外部資金獲得を支援する。	○教員全員が自ら研究計画シートを作成し、年度末の研究企画会議等でその進捗を把握した。 ○全教員はミニマムゴール以上の成果をあげるよう依頼し、その結果として昨年度末と比べてミニマムゴールを越えた教員が増加した。 ○各分野ごとに外部資金導入に関する年間計画を立案し、補助金申請書の査読システムなど実施することで、外部資金獲得を支援したり、分野内の研究グループでディスカッションを行うなど、外部資金獲得に向けた取り組みを実施している。 ○科研費獲得に向けて、査読システムを実施することで、科研費獲得を支援している。 ○医工連携を本校の研究の柱にすべく、呉市、くれ医療センターと連携を開始した。	Ⅲ	有
○協働研究センターを活用して、産業界や地方公共団体との共同研究、受託研究への取組を促進するとともに、これらの成果を公表する。	○広島県西部工業技術センターやくれ産業振興センターと連携して関連企業との共同研究や受託研究の受入れを推進する。 ○橋渡し機関認証(NEDO)を利用した連携強化を検討する。 ○関連団体の開催する技術説明会などに出席を行い、本校のシーズを発信し、企業等との共同研究への展開を図る。 ○イノベーションジャパン等のマッチングイベントへの出席を検討する。	○広島県西部工業技術センター研究成果発表会、環境展、イノベーションジャパン等へ出席し、シーズを発信した。 ○平成28年度に橋渡し機関認証(NEDO)を受けており、平成29年度も継続中であるが、本制度を利用した公募が行われていないため、未実施となっている。 ○科学技術振興機構(JST)や総務省が公募する大型競争的資金の獲得に向けて、関係企業との連携を行っている。	Ⅲ	有
○高専機構コーディネータと連携して知財化を推進するための学内ルールを明確化し、漏れのない知財出願ができるような環境を整備する。	○知的財産講演会等を実施する他、特許庁等が主催する講習会を積極的に利用し、教職員のレベルアップを図る。 ○教員が発明した知財をブラッシュアップし、明細書等の質を向上させ、特許の出願件数増加を目指す。	○知的財産講習会は実施していないが、4月の教員会で特許出願における留意点を周知した。 ○特許出願は行わなかったが、特許出願を行う案件が生じた際には、知的財産委員会を中心にサポートを行っていく。	Ⅲ	有
○教員の研究分野や共同研究・受託研究の成果などの情報を印刷物、データベース、ホームページなど多様な媒体を用いて企業や地域社会に分かりやすく伝えられる広報体制の充実を図る。	○技術シーズ集の充実を図るとともに、地域の推進団体を活用して情報発信を行う。 ○協働研究センターの発行するセンターパンフレット、シーズ集などを見直し、効果的な広報活動を行う。	○技術シーズ集を作成、ホームページへ掲載し情報発信を行うとともに、広島県西部工業技術センター、くれ産業振興センター等の地域の推進団体と情報共有を図り、当該団体を通して情報発信を行っている。	Ⅲ	有
○地域の教育委員会等と連携を深め、公開講座、出前授業及びサイエンスショー等を実施し、満足度調査を実施する。	○公開講座等の満足度調査を実施し、分析する。 ○地域企業技術者のスキル向上を目的とした公開講座の充実と、地元の小中学生を対象に理科教室、工作教室、出前授業を実施し、理科教育支援を推進する。 ○「びっくりワクワクサイエンスショー」を実施する。	○公開講座等の満足度調査を実施、分析した。 ○12月2日、12月9日に地域企業技術者を対象として、3DCADIに関する公開講座を実施した。また、小中学生を対象とした理科教室、工作教室、及び出前授業を実施し、理科教育の推進に努めた。 ○12月10日にびっくりワクワクサイエンスショーを開催し、775名の参加があり、盛況裏に終了した。	Ⅲ	有

平成29年度 自己点検・評価に係る報告書

「実施結果」欄は、Ⅰ：「実施していない」、Ⅱ：「十分に実施していない」、Ⅲ「十分に実施した」、Ⅳ：「計画を上回って実施した」

第3期中期計画	平成29年度 年度計画	実施状況	実施結果	次年度予定
<p>3 国際交流等に関する事項 ○「世界に挑戦」をキャッチフレーズにし、海外の大学との学術交流及び海外インターンシップを推進する。 ○海外の教育機関と学術交流を締結し、双方向の交流を推進する。</p>	<p>3 国際交流等に関する事項</p> <p>①国際交流を下記の3つのステップで推進する。 ○「世界を知る」ため、 ・海外研修としてを本校第3学年4学科全員(160人)が参加する、台湾研修旅行を実施する。12月に実施し、台湾の文化・歴史を知り、学生間交流を深める。 ○「世界と対話する」ため、 ・姉妹提携校である米国ハワイ大学マウイ校(UHMC)における、語学研修・ホームステイ・学生間交流を9月11-22日(11泊12日)で実施する。 ・中国四国13高専の学生70~80名を対象とした英語合宿を、8月28-30日の2泊3日で小豆島で実施する。 ・学校の枠を超えた学生の交流として、東南アジアの国々をより深く理解するため、アジアDAYを実施する。 ○「世界に挑戦する」ため、 ・国際学会での発表を促進する。 ・姉妹校である大連大学との学術交流・インターンシップの枠組みを新たに構築する。</p>	<p>①国際交流を下記の3つのステップで推進する。 ○「世界を知る」ため、 ・海外研修として本校第3学年4学科全員(160人)参加の、台湾研修旅行を、12月13-16日(3泊4日)に実施し、台湾の文化・歴史を知り、海洋大学と中央大学との学生間交流を深めることができた。 ○「世界と対話する」ため、 ・姉妹提携校である米国ハワイ大学マウイ校(UHMC)における、語学研修・ホームステイ・学生間交流を9月11-22日(11泊12日)で実施した。参加学生は5名であったが、英語学習・学生間交流・ホームステイの3領域で大きく成長した。成果報告書を作成し、中国地区8高専にも配布した。 ・中国四国13高専の学生を対象とした英語合宿を、8月28-30日の2泊3日で小豆島で実施した。参加学生は40人であったが、Nativeが14人と恵まれた環境で、多数のワークショップを通じて、夢実現力とコミュニケーション力を鍛える英語合宿となった。アンケート調査での学生満足度は高く、活動の様子は動画で成果報告をまとめた。成果報告会は中四国高専13高専からなる第4ブロック会議で報告した。 ・学校の枠を超えた学生の交流として、東南アジアの国々をより深く理解するため、アジアDAYを実施した。宇部・徳山・大島の3校の高専の参加があり、インドネシア、カンボジア、ベトナム、マレーシア、シンガポールからの留学生の参加があった。各校の紹介もあり、学校・国の枠を超えた活発な交流ができた。 ○「世界に挑戦する」ため、 ・国際学会での発表件数が10件以上あり、各学科とも積極的に取り組んでいる。 ・大連大学と合同でのインターンシップを行うことが決定した。 3月12-14日に大連にあるインターン受け入れ予定の会社を2社を視察すると共に、大連大学の宋副学長と面談し大連大学・呉高専連携インターンシップを実施することになった。大連大学3名、呉高専3名の合計6名参加予定。</p>	Ⅳ	有
<p>○海外留学を希望する学生を支援するため、必要な情報を提供するとともに東南アジア諸国を中心に海外インターンシップを奨励する。</p>	<p>○海外留学を希望する学生に必要な情報を提供し、支援する。 ○海外インターンシップ活動を推進する。</p>	<p>○海外留学に関心を持ってもらえるように、留学説明会や留学情報を積極的に提供し、すでに10名程度の応募があった。 今年度実施した海外イベント報告会を、1年生から3年生までの約500名を集めて実施した。 ○海外インターンシップを促進するため、大連大学と連携したインターンシップの全体概要が決定した。参加6名で計画。</p>	Ⅳ	有
<p>○海外からの留学生の受け入れを充実させるため、地域社会、周辺の中学・高校との交流を推進するほか、寄宿舎等の整備について検討する。</p>	<p>②海外からの留学生受け入れ人数を拡大、および入学後の留学生の学生生活の充実を図るため、下記の活動を実施する。 ○日本語及び英語ホームページの見直しを図り、呉高専の魅力を国内外の留学生にアピールする。 ○国際交流パーティを実施し、留学生・日本人学生との交流を深める。 ○「English ラウンジ」を実施し、ネイティブの教員を囲んで、留学生と日本人学生との交流を英語を通じて推進する。 ○留学生交流シンポジウム(山口徳地青少年自然の家)に参加し、中国地区8高専の留学生と日本人学生との交流の規模を広げる。</p>	<p>○ホームページの刷新を目指して、検討中である。 ○6月中旬に新たに入学したマレーシア、モンゴルの学生の歓迎会を6月9日に実施した。50人以上の参加があり、ゲームや各国の文化を紹介するプレゼンがあり、賑やかな交流会となった。 ○Englishラウンジを、国際交流部の学生が主体となり、継続的に実施している。 ○今年も留学生交流シンポジウムに参加し、中国8高専の留学生や日本人学生との交流を深めることができた。</p>	Ⅲ	有
<p>○留学生に対し、我が国の歴史・文化・社会に触れる研修旅行を毎年度実施する。</p>	<p>③恒例の留学生研修旅行を実施し、日本人在校生との交流を深めると共に、日本の文化・歴史・社会をより良く理解する機会を提供する。</p>	<p>○12月25日に日帰りのバス旅行を実施した。呉市内の留学生交流会との連携した活動が実施できた。</p>	Ⅲ	有

平成29年度 自己点検・評価に係る報告書

「実施結果」欄は、Ⅰ：「実施していない」、Ⅱ：「十分に実施していない」、Ⅲ「十分に実施した」、Ⅳ：「計画を上回って実施した」

第3期中期計画	平成29年度 年度計画	実施状況	実施結果	次年度予定
<p>4 管理運営に関する事項 ○校長がイニシアティブをとり、迅速かつ責任ある意志決定を行うとともに、校長裁量経費により戦略的かつ計画的な資源配分を行う。</p>	<p>4 管理運営に関する事項 ○校長がイニシアティブをとり、いくつかの懸案事項について迅速かつ責任ある意志決定を行う。 ○校長裁量経費により、戦略的かつ計画的な資源配分を行う。</p>	<p>○校長のイニシアティブにより、懸案事項であった次の項目に関し、実施した。 ・KOSEN4.0イニシアティブの策定。地域実践教育プログラムの実施 ・教育体制整備の計画策定。特別枠で2名採用 ・受託事業の規則制定。1件受入れ ・図書館・教育センター、第6寮の女子寮への改修計画策定（H31概算要求） ・校長裁量経費の改正（5年間の実績を踏まえ、一部改正） ・呉高専の特色を9項目にまとめ直し、HPなどを中心に公開。PRに活用 ・実績を上げている教育内容を「工学教育」へ投稿するよう、複数名の教員に指導 ・広島県の遠隔地内側と呉市遠隔地の中学校のうち未訪問校ならびに有力校26校を校長が訪問。3年間で、呉市街地を除き、広島県の主な中学校をほぼ訪問。教員の負担軽減と本校のPR。来年度以降の訪問重点校の方向性にメド ・本科推薦入試募集人員の変更（一般推薦と特別推薦合わせて50%に） ・特別推薦基準の見直し（調査書基準点を引き上げ、優れた実績の内容も精査） ・一般推薦における面接評価方法の見直し（面接室間における評価点の是正） ・入学説明会実施日の変更（広島県教委からの要請を受け、公立高校入試日の翌日に実施） ・授業アンケートの見直し（内容精選） ・TOEIC得点の推移をグラフ化し、現状を把握 ・本科学業成績優秀者に本校オリジナルの副賞を授与 ・専攻科の入試説明会資料の見直し。専攻科の定員を充足（43名入学） ・専攻科生の研究業績の推移をグラフ化 ・慶弔関連規則の改正 ・呉高専主催による送別会の実施 ○学生の落ちこぼれ対策に加え自学自習の習慣を確立するため、校長裁量経費を用い、1年生全員を対象に、eラーニングシステム「すらら」を導入</p>	Ⅲ	有
<p>○管理運営の在り方について、各種研修会及び会議で得た情報が共有できるよう、定期的に運営連絡会を開催するほか、管理運営体制及び自己点検・評価体制の改善を図る。</p>	<p>○機構等の主催する研修会等へ役職員が積極的に参加する。</p>	<p>○機構等の主催する研修会等へ役職員を積極的に参加させた。</p>	Ⅲ	有
<p>○業務の集約化、効率化及び合理化を推進するため、費用対効果を考慮した上でアウトソーシング等で対応可能な業務がないか検討する。</p>	<p>○管理業務の分析により必要性、実施時期の適正を勘案したうえで共通認識で使用できるマニュアル及び仕様書の作成を図る。</p>	<p>○企画広報係においては外部資金受入関係のマニュアル構築 ○用度係においては納品研修マニュアルの構築等により研究費等の適正執行に貢献できるように対応した。</p>	Ⅲ	有
<p>○学校運営等に重大な影響を及ぼす恐れのある事態等を予測し、防止策等に取り組む。</p>	<p>○学校運営等に重大な影響を及ぼす恐れのある事態（リスク）等の発生を予測するため、クレーム及び不具合等の蓄積並びに関係者へ周知する報告書作成</p>	<p>○更なるリスク管理を検証することとした。</p>	Ⅲ	有

平成29年度 自己点検・評価に係る報告書

「実施結果」欄は、Ⅰ：「実施していない」、Ⅱ：「十分に実施していない」、Ⅲ「十分に実施した」、Ⅳ：「計画を上回って実施した」

第3期中期計画	平成29年度 年度計画	実施状況	実施結果	次年度予定
○機構及び地区等の主催する各種研修会等へ参加させるほか、本校における研修実施計画を策定する。 ○コンプライアンスに関するセルフチェックを実施する。	○コンプライアンス意識向上に関する各種研修会等へ参加する。 ○コンプライアンスに関するセルフチェックを実施し、回答内容を確認の上、必要に応じた対策を施す。	○12月20日に公的研究費のコンプライアンス教育及び不正防止に関するFD研修会を実施した。 また、意識向上に関する各種研修会等に可能な限り参加させた。 ○コンプライアンスに関するセルフチェックを実施し、回答内容を確認の上、必要に応じた対策を施した。(回答率:常勤教職員100%, 非常勤教職員100%)	Ⅲ	有
○学内の監査体制の充実を図る。	○相互監査、内部監査を実施し、監査結果を確認の上、必要な対策を施す。また、現状の監査体制で十分なのかを検証し、必要に応じて監査体制の見直しを行う。	○相互監査:平成29年11月1日、2日に松江工業高等専門学校を監査校として実施され、特段の指摘事項はなかった。 ○内部監査:平成29年12月18日～平成29年12月22日に実施し、特に指摘事項はなかった。 ○物品検査:平成29年11月20日～平成29年12月27日で実施し、大きな問題点はなかったが、ラベルのないものについては再発行し、使用者や設置場所の変更については手続き書類を提出するよう依頼した。	Ⅲ	有
○平成24年3月の理事長通知「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策の徹底について」確実に実施する。	○「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策」及び「公的研究費の管理・監査のガイドライン(平成26年2月18日改正)」を確実に実施させるため、平成27年12月に本校で策定した「呉高専 公的研究費使用マニュアル」により必要事項の周知を行うほか、財務事務室において勉強会を開催し、その徹底を図る。	○「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策」及び「公的研究費の管理・監査のガイドライン(平成26年2月18日改正)」を確実に実施させるため、12月20日の教員会終了後において、公的研究費のコンプライアンス教育及び不正使用防止に関する研修会を実施した。また、地区別の勉強会に担当職員を派遣またはテレビ会議にて参加し知識の習得に努めたほか、会計室においても必要な情報共有(勉強会)を行い、その徹底を図った。	Ⅲ	有
○事務職員や技術職員の能力の向上のため、各種研修を計画的に実施するとともに、必要に応じ文部科学省、地方自治体及び企業などが主催する研修に職員を参加させる。	○事務職員や技術職員の能力向上を図るための各種研修会を実施する。 ○国、地方自治体、国立大学法人等が主催する研修会等へ参加する。	○事務職員や技術職員の能力向上を図るための各種研修会を実施した。 カウンセラー特別講演 9名 ○事務職員及び技術職員を対象とした次の学外研修に参加した。 【高専機構主催】 ・初任職員研修 ・新任課長研修 ・IT人材育成研修会 ・情報担当者研修会 ・若手職員研修会 【大学・高専主催】 ・中国・四国地区国立大学法人等安全衛生研修会 ・中国地区高等専門学校技術職員研修会 ・中国・四国地区国立大学法人等人事労務担当職員研修会 ・西日本地域高等専門学校技術職員特別研修会(建築・環境系) ・中国・四国地区国立大学法人等技術職員研修(機械系・情報系) ・中国・四国地区国立大学法人等技術職員組織マネジメント研究会 ・中国・四国地区国立大学法人等係長研修 【労働基準協会】 ・職長等教育講習会 ・自由研削といし特別教育 ・玉掛け技能講習・クレーン運転特別教育併合講習 【総務省】 ・政策評価に関する統一研修 【人事院】 ・改正給与法に関する規則等の説明会	Ⅲ	有
○事務職員及び技術職員については、国立大学や高等専門学校間などの積極的な人事交流を図る。	○近隣の大学及び高専と人事交流に関して意見交換を行い、今後の人事交流のあり方について具体的な方針等を検討する。 ○事務職員との面談実施及び業務内容を勘案し適正及び適所を提案並びに広範囲な業務対応能力の養成支援	○近隣の広島大学や広島商船高専と相互に往来し、情報交換、今後の課題や対処策を協議検討した。	Ⅲ	有

平成29年度 自己点検・評価に係る報告書

「実施結果」欄は、Ⅰ：「実施していない」、Ⅱ：「十分に実施していない」、Ⅲ「十分に実施した」、Ⅳ：「計画を上回って実施した」

第3期中期計画	平成29年度 年度計画	実施状況	実施結果	次年度予定
○情報セキュリティ対策を適切に推進し、情報システム環境を整備する。	○情報セキュリティ推進委員会を中心に、各種研修を通じて学生や教職員の情報セキュリティ意識の向上に努める。	○情報セキュリティ推進委員会が、教職員や全学生に対して情報セキュリティに関する規則遵守のための誓約書やセルフチェックリストを提出させ、意識啓発を促した。 ○機構ソフトウェア管理規則に基づき、ソフトウェア管理検査を11月に実施し、機構本部に報告した。	Ⅲ	有
○機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、中期計画及び各年度計画を定める。 ○具体的成果指標を検討し、実現に向け努力する。	○機構の中期計画及び平成29年度年度計画を踏まえ、中期計画及び平成29年度年度計画を定める。	○機構の中期計画及び平成29年度年度計画を踏まえ、中期計画及び平成29年度年度計画を定めた。	Ⅲ	有
Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置 ○一般管理費の縮減及び随意契約の見直しを行う。	5. 業務運営の効率化に関する事項 ○不要不急な業務(物品購入・役務)の仕分けを行い、コストを削減するための手段を検討する。 ○電気・ガス・水道・電話・郵便等の公共料金に類する契約を除き、随意契約は行わないとともに、フォローアップを適宜実施する。なお、電気については、平成30年度からの一般競争入札移行に伴い市場調査を行う予定。	○物品購入・役務に関する契約を行う際、従来取引のあった業者に加え、新規業者からも見積徴取を行うように努め、競争性の確保及びコスト削減につなげた。 特に、構内廃棄物(臨時分)収集運搬業務について、支出額ベースで前年比58%減、構内(職員宿舍含む)除草業務で前年比29%減の実績を得た。 また、構内廃棄物(定期分)収集運搬業務においては、平成30年度開始分について新規業者との契約締結を行い、本年度比25%の削減となる予定である。 ○電気供給契約の一般競争入札への移行を見据えた市場調査として、中国地方近隣複数高専から仕様書及び契約内容等についての情報提供を受けるとともに、複数業者からの見積聴取も行った。 平成30年度においては、一般競争入札に付する予定である。	Ⅲ	有
Ⅲ 予算(人件費の見積もりを含む、収支計画及び資金計画) ○自己収入の増加と固定的経費の削減を図る。	6. その他 ○自己収入については、学生定員を充足し、入学料・授業料等の学納金収入を確保する。 ○共同研究、受託研究、奨学寄附金、科学研究費助成事業及びその他の外部資金の獲得に積極的に取り組み、自己収入を確保する。 ○事務・事業の継続性及び円滑な実施が行えるよう基盤的経費の配分を行った上で、取組状況等を踏まえ、効果的な執行に配慮し固定的経費の節減を図る。	○自己収入については、学生定員を充足し、入学料・授業料等の学納金収入を確保した。 ○事務・事業の継続性及び円滑な実施が行えるよう基盤的経費の配分を行った上で、取組状況等を踏まえ、効果的な執行に配慮し固定的経費の節減を図った。 ○共同研究、受託研究、奨学寄附金、科学研究費助成事業及びその他の外部資金の獲得に積極的に取り組み、自己収入を確保するため、教員会において科研費等の申請の進捗状況を確認し、申請を促した。 ○高専機構に「受託事業」に関する規則がなかったため、事務手続きが簡便で、受託事業の適切な受け皿となり、更なる外部資金の獲得に繋がるよう、機構本部と相談の上、先行して「受託事業取扱規則(H29.10.10)」を制定した。	Ⅲ	有
Ⅴ 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	Ⅴ 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画 ○重要財産である広職員宿舍(木造)については、平成27年4月の高専機構役員会で売却又は国庫返納することが承認された。今後、文科省協議、財務省協議の上、文部科学大臣の認可を得た上で、必要な手続きを進める。	○重要財産である広職員宿舍(木造)については、平成27年4月の高専機構役員会で売却又は国庫返納することが承認された。文部科学大臣から承認され、高専機構本部の通知を待ち売払いに向けて準備中。	Ⅲ	有

平成29年度 自己点検・評価に係る報告書

「実施結果」欄は、Ⅰ：「実施していない」、Ⅱ：「十分に実施していない」、Ⅲ「十分に実施した」、Ⅳ：「計画を上回って実施した」

第3期中期計画	平成29年度 年度計画	実施状況	実施結果	次年度予定
Ⅶ その他主務省令で定める業務運営に関する事項 1 施設及び設備に関する計画 ○保有施設の長寿命化、省エネルギー化、及び障害者等に配慮した長期的な施設整備計画としてのキャンパスマスタープランを策定する。	Ⅶその他主務省令で定める業務運営に関する事項 1施設及び設備に関する計画 ○施設管理に係る調査として不動産検査・施設利用状況調査を継続的に実施し、全学的に立った施設マネジメントに基づき整備計画による整備を行うとともに、前年度と同様省エネに努める。 ○長期的な施設整備計画として、資産の有効活用を視野に入れたキャンパスマスタープランについて、平成29年3月の高専機構との意見交換会での意見等を踏まえ、必要に応じて関係機関と具体の検討を行う。	○施設・整備計画による整備を行うとともに、継続して省エネに努めるため、エアコン温度を適正な温度設定とするよう周知した。また、予算削減に対応するためデマンド監視を行い、オーバーしそうな時は、メール等で学内へ協力を呼びかけた。 ○高専“4.0”イニシアティブも視野に入れつつ、機構本部施設課と意見交換を踏まえ、図書館改修・ライフライン再生・第六寮改修の概算要求を行った。寄宿舎整備計画を基に営繕事業要求した第四寮2階内部改修が決定し、改修工事を行った。	Ⅲ	有
2 人事に関する計画 (1)方針 ○教職員ともに積極的に人事交流を進め、多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し、資質の向上と職務能力の向上を図る。 (2)人員に関する計画	○平成30年度の高専・技科大間教員交流制度による教員の人事交流を検討する。 ○機構及び地区等主催の各種研修会等へ参加させるほか、本校における研修実施計画を策定する。 ○近隣の大学及び高専と人事交流に関して意見交換を行い、今後の人事交流のあり方について具体的な方針等を検討する。	○平成30年度の高専・技科大間教員交流制度による教員の人事交流は、内地研究員1名を派遣するため見送った。 ○機構及び地区等主催の各種研修会等へ参加させた。 ○近隣の大学及び高専と人事交流に関して意見交換を行い、今後の人事交流のあり方について具体的な方針等を検討している。	Ⅲ	有